

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業名	一般国道115号 <small>あぶくまひがし</small> 阿武隈東道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自： <small>ふくしま そうま やまかみ</small> 福島県相馬市山上 至： <small>ふくしま そうま ひがしたまの</small> 福島県相馬市東玉野	延長	10.7km		
事業概要	一般国道115号は、福島県東部の相馬市を起点とし、伊達市、福島市を經由して、猪苗代町に至る延長120kmの広域幹線道路である。 阿武隈東道路は、相馬福島道路（東北中央自動車道）の一部を形成し、相馬市山上から相馬市東玉野に至る延長10.7kmの自動車専用道路である。				
H16年度事業化	H一年度都市計画決定 (H一年度変更)	H18年度用地着手	H19年度工事着手		
全体事業費	370億円	事業進捗率	89%	供用済延長	— km
計画交通量	9,400台/日				
費用対効果 分析結果	B/C： (事業全体) 1.7 (残事業) 15.3	総費用： (残事業)/ (事業全体) 47億円/417億円 (事業費：19億円/388億円 維持管理費：29億円/28億円)	総便益： (残事業)/ (事業全体) 721億円/721億円 (走行時間短縮便益：652億円/652億円 走行経費減少便益：8.2億円/8.2億円 交通事故減少便益：60億円/60億円)	基準年： 平成25年	
感度分析の結果	【残事業】交通量：B/C=13.8~17.4(交通量±10%) 事業費：B/C=15.0~15.7(事業費±10%) 事業期間：B/C=14.8~16.1(事業期間±20%)				
事業の効果等	①物流効率化の支援 ・現道等における、ISO規格背高海上コンテナ輸送車が通行できない区間（国道115号高さ指定無し（背高コンテナ通行不可））を解消する ②国土・地域ネットワークの構築 ・現道等における大型車のすれ違い困難区間（相馬市山上、東玉野、玉野 車道幅員W=5.5m以下12箇所）を解消する ③安全安心できる暮らしの確保 ・相馬市から福島医大病院（現況83分）へのアクセス向上が見込まれる ④災害への備え ・現道等の防災点検要対策3箇所（相馬市大字山上字滝平）等が解消される ・現道等の特殊通行規制区間（土砂崩壊（11.5km））を解消する				
関係する地方公共団体等の意見	○福島県知事の意見 国の対応方針（案）については異議ありません。 本路線は、東日本大震災で被災した本県の相双地方の復興はもとより、各地域の広域的な連携への貢献が期待できる等、復興リーディングプロジェクトとして福島県全体の復興に資する重要な路線であることから、強力な推進による早期完成をお願いします。 なお、当該事業を進めるにあたりましては、県の費用負担に対する全面的な財政支援と、事業が完了するまでの安定した予算の確保をお願いします。 ○以下の団体から、阿武隈東道路の整備促進について要望あり 一般国道115号（福島・霊山・相馬間）整備促進期成同盟会				
事業評価監視委員会の意見	対応方針（原案）どおり「継続」が妥当である。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。				
事業の進捗状況、残事業の内容等	事業進捗率89%、うち用地進捗率97%				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	・事業進捗に係る問題はない。				

・ H 2 8 年度全線開通予定。

施設の構造や工法の変更等

- ・ 橋脚の中空断面を採用することによるコスト縮減
- ・ トンネル内円形側溝の検討によるコスト縮減
- ・ トンネル照明器具の検討によるコスト縮減

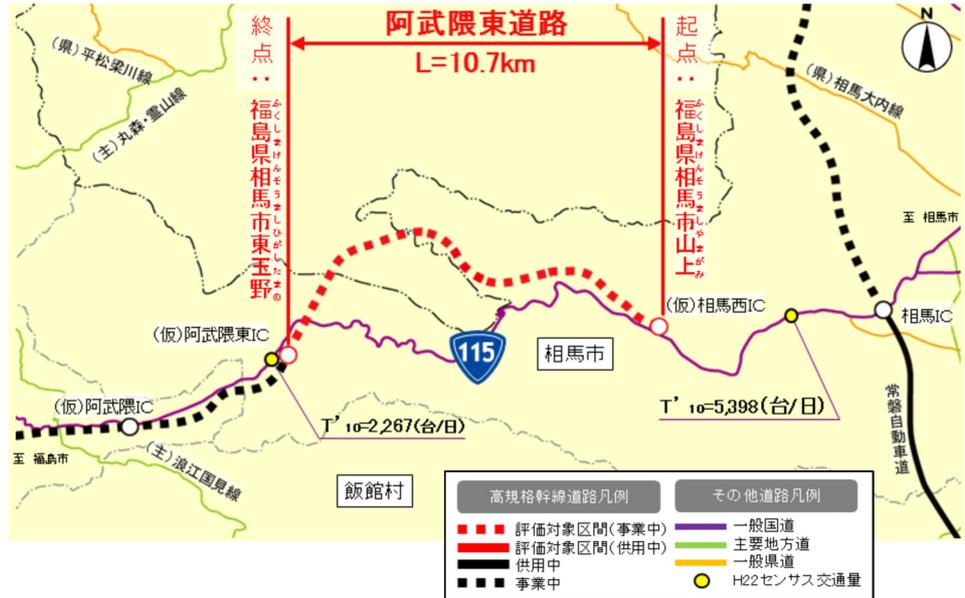
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。